結絆（ゆうき）
勇気と信頼で 244人の思いをつないだ海の学習

in 美浜自然の家

葵中新聞

発行所
岡崎市立葵中学校
（電話　21-0171）
（FAX　21-0172）
6月号

第67回岡崎市総合体育大会

『生活信条』
あいさつ・おもいやり いまがたいせつ

校長　柴田　昌一

葵中学校には、生徒と教職員がともに知恵を出し合い、作業を行い、学校を作り上げてきたという校風があります。

昭和二十二年四月、新学制が発足し、岡崎市に葵中学校をはじめ十二校の新制中学校が誕生しました。翌年の昭和二十五年には、葵中学校の生徒たちは学校にプールを作るため、連日街頭募金を行って資金を集め、竹箒やモッコを担いで自らも作業をして、五十メートルプールを完成させるために力を合わせました。

昭和四十五年には、当時の生徒たちによって、アイデアを出し話し合い、葵中生の合言葉になっている「あいさつ」「おもいやり」「いまがたいせつ」の生活信条の言葉が生み出されました。もう五十年以上も前のことですが、生活様式や習慣が大きく変わった今でも、変わらずにとても大事な言葉だと思います。

「あおい」の頭文字で作られた、この生活信条を見て私が思ったのは、「い」で「いまがたいせつ」を選んだ、昭和四十五年の生徒たちはすばらしいなということです。生きている人すべてに与えられている「今」ですが、それを意識して過ごすことはあまりありません。

しかし、思春期で成長期でもある中学生にとって、心も体も大きく変化する「今」はとても大切です。また、目まぐるしく変化する現代の世の中で、生きていく上での一日一日の過ごし方、まさに「今」はとても大切です。ほかにも大切にしなければならない「今」、大切にしたい「今」は、一人一人にあるのではないかと思うのです。

六月六日開催の、生徒全員で話し合う「あおいＭＡＸ」のテーマを『生活信条』にしたと生徒会役員から聞きました。私は、特に、「いまがたいせつ」をどのように葵中生が語ってくれるのかを楽しみにしています。

最後に報告です。前回号で葵中学校では、すべての学年で宿泊を伴う行事を行うことを紹介しました。五月末、先頭を切って一年生が海の学習を行いました。あいにく天候には恵まれませんでしたが、そんな中でも楽しむことができるよう、考えられていた雨天案で盛り上がることができました。また、時計を見て、自分の頭で考え、判断して行動する姿が徐々に増えました。出身小学校が違う友達との交流も増え、学年の仲間との絆が深まりつつあると感じました。一年生たちは「いまをたいせつ」にして海の学習に取り組むことができたと思いました。

集大成の夏！ 市長杯いざ出陣

笑顔で終われるように

陸上部男子

総合体育大会では各々が記録を更新でき、男子総合で四位になり、自分たちの成長を実感しました。しかし、わずかにベスト3におよばなかったことや、リレーではベストタイムを大幅に更新したものの、新人戦より順位が落ちてしまったことなど、悔しい結果にもなりました。

僕たち三年生にとっては、市長杯が全員で挑める最後の大会となります。最後の大会では、全員が笑顔で終われるように全力で挑みます。

スタートにかける

陸上部女子

私たちは、常に自己ベスト更新を目指して、練習に励んできました。

入学するまで陸上未経験だった私は、スタートダッシュの方法や腕の振り方を追究し、走り込み、二年間で百m走のタイムを一・五秒縮めることができました。他の部員も練習の成果が結果としてきちんと出ています。

最後の市長杯。悔いが残らないよう精いっぱい挑むことはもちろん、先生方や親、仲間への感謝の気持ちを込めて頑張ります。

楽しく、悔いの残らないように

テニス部男子

中学三年間頑張ってきた部活も、もう終わります。夏の大会は今までしてきたことの集大成です。応援してくれた親や先生への感謝の気持ちを忘れずに、楽しく、悔いの残らないようにプレーします。最後の大会まで一緒に戦ってくれる仲間のため、全力でプレーして一勝でも多く勝ち取ってきます。そしてみんなで楽しめるテニスを目指して頑張ってきます。

最後は笑顔で

テニス部女子

総合体育大会では、自分たちのミスが続き、負けてしまいました。市長杯は私たち三年生にとって最後の大会です。今まで勝てなかったチームと対戦する可能性もあると思います。私は、勝つために必要なことは何か考えました。それは、今まで顧問の先生に言われていたことをやるということだと気づきました。仲間と声を掛け合い、残り少ない練習時間を大切にしていきたいです。仲間と笑顔で終われるように頑張ってきます。

ボールに想いを乗せて

バレーボール部

自分たちの代になってから一年。仲間と意見が合わず、上手くいかないことがたくさんありました。しかし、つらいときには、何度も仲間と手を取り合い乗り越えてきました。市長杯でもつらい場面がたくさんあると思います。そんなときは仲間と声を掛け合い、チームの絆を武器に頑張ります。最後は笑顔で終われるように、今まで支えてくれた先生、仲間への感謝の想いを一球一球に込めて全力でプレーします。

最後の大会

水泳部男子

いよいよ中学校生活最後の大会です。自分の目標はバタフライで入賞し、ベストタイムを出すことです。これが中学校生活最後の大会かと思うと、大会で目標に届かず、悔しい思いをしてしまうかもしれないと、今は不安な気持ちになることがあります。そのマイナスな考えを消し去るために、仲間たちとの残り僅かな練習時間を大切にします。より真剣に、互いに高め合いながら練習に取り組みます。そして、仲間たちとともに最後の大会に全力で挑んできます。

一致団結

水泳部女子

市長杯に向けて、チーム全員で一致団結し、市長杯入賞、県大会出場を目標に、仲間と声を掛け合い、助け合いながら一生懸命練習してきました。

三年生にとっては、最後の市長杯。一人一人が、一秒でもベストタイムが更新できるように全力で頑張ります。そして、一日でも長く仲間と練習できるよう、西三大会、県大会へと繋げていきたいです。

三度目の正直

卓球部男子

僕たち卓球部男子は、何度も悔しい思いを味わってきました。新人戦でも、今度こそと臨んだ総体でも、入賞まであと一歩のところで敗退してしまったからです。あのとき勝っていればと思うと悔しくてたまりません。

市長杯が最後の大会です。最後に悔しい思いをしないように、残り少ない部活の時間を有効に使って、今の僕らに足りないところを少しでもできるようにしたいです。そして、大会では、この三年間やってきたことを全て出し切って、最後まで全力で戦います。

次に繋げられるように

卓球部女子

女子卓球部は、今の自分には何が足りないのかを考え、自分たちでメニューを作り練習を行っています。普段の活動では、楽しむことを忘れず、時には厳しくメリハリをつけています。私たち三年生にとって、市長杯は最後の大会となります。胸を張ってコートに立ち、最後まで納得のいくプレーができるよう、これからも努力を惜しまず練習に励み、大会に臨みます。

集大成の大会に

野球部

僕たち野球部は、これまでに数多くの練習試合を行い、自分たちの課題を見つけ、その克服に向けて練習し、成長してきました。しかし、今までの大会で

は、よい成績を残すことができませんでした。だからこそ、最後となるこの大会でみんなと力を合わせて勝ちたいと思っています。これまで一生懸命に仲間と共に頑張ってきた集大成として、心を一つに悔いのないように戦います。

仲間と目標に向かって

ソフトボール部

私たちは市長杯に向けて、当たり前のことを当たり前にできるように頑張っています。特に挨拶です。試合会場や普段の生活でも挨拶はとても大切なことなので、常に先生方や見に来てくださる方に挨拶をすることを心掛けています。日々の練習では、守備を強化するために、チーム内で注意をし合い、全員が強くなれるように練習しています。

新チームになってからここまで頑張ってきた仲間と、最後まで信じ合い、全力で戦い切れるようにします。

有終の美を飾るために

サッカー部

総体が終わり、休む間もなくリーグ戦、そしていよいよ最後の大会がやってきます。僕たちは、未だによい成績を残せていません。しかし、最近は今までできなかった連係プレーが少しずつできるようになってきました。でもまだまだ上達することができるはずです。これからの数少ない貴重な練習で、さらに自分たちで考えて行動し、プレーに磨きをかけていきたいです。そして、有終の美を飾ります。

頂点へ

バスケットボール部男子

僕たちは、先輩たちの「走るバスケ」を引き継ぎ、東海大会を目標に日々の練習を大切にし、一生懸命に頑張ってきました。総体では、「走るバスケ」が思うようにできず、準優勝という結果に終わりました。この結果にチーム全員は満足することなく、悔しさが残っています。

これまで支えてくださった方々へ恩返しするためにも、市長杯では、悔いを残すことがないよう、一戦一戦チーム全員で最後まで全力で戦い、次こそ頂点に立ちます。

心技体で勝つ！

バスケットボール部女子

私たちは新人戦・総体、初戦敗退という悔しい結果で終わってしまいました。「今度こそ、負けたくない。」その一心で練習しています。部員は少ないですが、練習では常に声を出し、アドバイスし合いながらプレーしています。

私は、心技体という言葉を大切にしています。それは、誰にも負けない強い心、みんなを支えるプレー、バスケを楽しむ姿勢です。この言葉を常に意識し、最後まで走り切って、最後の夏の大会、勝ってきます。

目標へ向けて

剣道部男子

男子剣道部の目標は、西三河大会入賞です。昨年は西三河大会で決勝トーナメントに進出したものの、県大会には出場できませんでした。チームで話し合い、「今年こそ必ず県大会に行く」と決めました。そのために、基本技・応じ技ともに「ここがよい」「もっとこうした方がよい」と互いに教え合いました。

五月の総合体育大会では、ベスト8で負けてしまい、とても悔しい思いをしました。悔しい思いはもうしたくありません。夏の大会で笑えるように、あと少し、自分たちを追い込んでレベルアップできるよう努力します。

悔しい思いを胸に

剣道部女子

私たちは総体で目標の三位入賞することができず、悔しい結果で終わってしまいました。今の自分たちに足りていないところをもう一度見直し、市長杯までにできるように仲間と共に、一日一日の練習を大切にしていきたいです。市長杯では、三位入賞し、西三大会に出場することが私たちの目標です。次こそは悔いの残らないように、全力で頑張ります。

勝つためには

ハンドボール部

ハンドボール部は、総体準優勝という悔しい結果に終わりました。僕たちはこの大会を通して技術だけでなく、気持ちの面でも強くなければ勝つことは不可能だということを学びました。それは、チームを鼓舞し、盛り上げることで勢いがつき、勝利につながるということを実感したからです。夏の大会では、総体で感じたことを踏まえ、二年間の集大成を示し、悔いの残らない試合をしたいと思います。

夏のコンクールに向けて

三十七人、心を一つに

吹奏楽部

私たちは今、夏のコンクールに向けて練習を頑張っています。昨年までは小編成で出場していましたが、今年からは大編成で出場できることになりました。二曲の課題曲と自由曲、計三曲を、そろえることを意識して練習しています。昨年は逃してしまった金賞を、今年はつかみ取れるように、二、三年生、三十七人で協力し、高め合い、心を一つにして頑張ります。

伊賀川プロジェクトに参加して

七十六年目の地域貢献活動

美化委員長

七十五年も前から行われている伊賀川プロジェクトの活動。今年最初の伊賀川プロジェクトでは、三年生の半分以上の人が参加してくれました。当日、土手清掃や球根植えを積極的に行うみんなの姿を見て、地域に貢献したいという思いが伝わり、とてもうれしく思いました。そんなみんなを見て、私自身もより地域に貢献しようと、積極的に行動することができました。学校の先生や地域の人々、たくさんの人に支えられた今年最初の伊賀川プロジェクトは、大成功だったと思います。これからもこの活動の歴史が繋がれていくことを、私は願っています。

能楽体験を終えて

日本文化を体験

三年四組

六月二日の能楽体験、普段あまり触れることのない能楽は、私にとってとても新鮮でした。特に印象に残ったものは、楽器体験の大鼓（おおづつみ）でした。大鼓は音を出すことが難しく、叩くと手に衝撃が伝わり痛かったです。指導してくださった方は、練習で手から出血したことがあると言っていましたが、その方が叩いた大鼓の音はとても高く、澄んだ美しいもので、体育館中に響いていました。私はその音色に、日々積み重ねてきた努力の重みを感じました。能楽とは、先人が努力を重ねて作り上げた日本の素晴らしい文化であると思います。今回の体験をきっかけに、様々な日本の文化に触れていきたいと思いました。

海の学習を終えて

仲間を思いやる気持ち

一年一組

海の学習では、みんなの意見を一つにまとめることの難しさ、互いを尊重し合うことの大切さを学びました。僕たちは、日本一団結力のあるクラスを目指しています。砂の造形では、みんなが自分の役割を果たし、とてもよい作品を作ることができました。しかし、レクで人文字をつくるときには、意見が食い違い、言い合いになってしまう場面もありました。互いに相手の意見に耳を傾けることができればよかったと思っています。

海の学習テーマ「結絆（ゆきずな）」は、今後の生活でも大切にし、学級・学年の仲間と仲良く、絆を深めていきます。

表彰の記録

第六七回岡崎市総合体育大会の記録

【団体の部】

準優勝　バスケットボール部男子
　　ハンドボール部

【個人の部】

陸上男子
一〇〇ｍＨ　二位
走高跳　三位
四×一〇〇ｍＲ　三位

陸上女子
二〇〇ｍ　一位
一〇〇ｍＨ　二位
四×一〇〇ｍＲ　三位

岡崎市民剣道大会

中学三年女子の部　三位

今後の予定

七月

一日㈯～市長杯
一二日㈬～一四日㈮　保護者会
一四日㈮　ひまわりプロジェクト
一九日㈬　給食終了、大掃除
二〇日㈭　一学期終業式

八月

二九日㈫　二学期始業式、避難訓練
三〇日㈬　四時間授業、給食なし
三一日㈭　弁当、委員会

葵が丘

豊かな心を

教頭　山口　裕嗣

生徒たちは、いろいろなアイデアを出して、学校生活に彩りを与えて『豊かな心』を育んでいます。

この『豊かな心』とは、心の動きに《ゆとり》がある状態です。たとえば、小鳥の声に小さな生命の存在を知る子供の心には、勉強以外のことを感じる《ゆとり》があります。夕焼けの美しさに見とれる子供の心にも、スポーツの勝敗以外に目を向ける《ゆとり》があります。このような子供たちをどうしたら育てることができるのでしょうか。その一つが、朝の『読書タイムです』。これが一日の始まりの重要な役割を果たしていると考えます。

ある人が言っています。

「人の生き方を学ぶにはできるだけたくさんの人に出会って話をするといい。でも、そこには限界がある。過去や未来の人には会えないし、遠い土地に住む人に会うこともまた困難である。だが、本はそれを可能にしてくれる。時空を超えて人との対話ができる。しかも自分の頭の中でイメージを膨らませていくことができ、豊かな想像力を育んでくれる」

朝八時、静まり返った『読書タイム』を覗いていく。Aさんの目が突然本から離れて正面を見据えた。